

平成30年度 文化庁日本語教育大会・京都大会

＜2日目：10月14日（日）10：00～12：00＞

日本語教育人材のキャリアパス～現場で活躍する先輩に直接聞いてみよう！～

日本語教師が活躍する分野は多岐に渡ります。それぞれの現場で専門性を発揮し、活躍する日本語教育人材の皆さんに、現場で今取り組んでいることや課題、これまでのキャリアパスなどについて、直接お話を聞ける場を作りました。職業として日本語教育に関わる先輩に、進路の相談や現在の課題について直接聞いてみましょう。



全2回，11セッション（各セッション定員5名）

第1回：10:00～10:45 第2回：11:00～11:45



●先輩スピーカー●

1. 海外で教える（国際交流基金派遣専門家経験者）

三宅 直子（みやけ なおこ）さん（独立行政法人国際交流基金関西国際センター）

2. 日本語学校で教える

小西 沙知（こにし さち）さん（学校法人瓜生山学園 京都文化日本語学校）

3. 就労希望者に教える

三原 加津子（みはら かつこ）さん（一般財団法人日本国際協力センター（JICE））

4. 看護・介護職希望者に教える

矢谷 久美子（やたに くみこ）さん（一般財団法人海外産業人材育成協会関西研修センター）

5. 難民に教える

中野 美紀（なかの みき）さん（公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部）

6. 技能実習生に教える

藤原 麻佐代（ふじわら まさよ）さん

（タイグエン医薬大学，元 HAI PHONG 株式会社日本語センター）

7. 障害のある人に教える

江副 隆秀（えぞえ たかひで）さん（学校法人江副学園 新宿日本語学校）

8. 高等学校で教える

甲田 菜津美（こうだ なつみ）さん（大阪府立布施北高校）

9. 中学校で教える

浦 久仁子（うら くにこ）さん（堺市立三原台中学校）

10. 夜間中学で教える

黒川 優子（くろかわ ゆうこ）さん（元 東大阪市立布施中学校夜間学級）

11. 出版社で生かす

渡辺 唯広（わたなべ ただひろ）さん（株式会社凡人社）



※本セッションは事前予約制です。10月13日（土）大会1日目終了後に会場受付にて事前予約を受け付けます。残席がある場合、14日（日）9：30から会場にて申込みを受け付けます。

1. 海外で教える（国際交流基金派遣専門家経験者）

独立行政法人国際交流基金関西国際センター 日本語教育専門員
三宅 直子（みやけ なおこ）



<プロフィール>

「外国に住んでみたい」という単純な動機で、日本語教師の勉強を始めました。こんなに面白い仕事はない、この仕事を続けたい、と考えるようになったのは、青年海外協力隊員としてマレーシアの中等学校で教壇に立ってからです。それから約20年、国内では日本語学校・大学・社会福祉法人で、国外では国際交流基金派遣専門家としてインドネシアとマレーシアの大学で教えてきました。現在は国際交流基金関西国際センターで、eラーニング開発の仕事に携わっています。

<メッセージ>

海外で働いていると、教室での授業や副教材・テスト作成、クラス運営に関わる教務の仕事など日本語教師の基本業務だけでなく、行事やイベントの企画・運営、教師研修、「ナマ日本人」として他団体からの手伝い要請に応えるといった、臨機応変さが求められる場面が多いです。いろいろな方と協力しつつ役割を果たすのは、うまくいってもいなくても、それ自身が次へつなげる貴重な経験でした。

日本語教師というのは人間相手の仕事です。想定外のことがしばしば起こります。だからこそ、どんな経験・どんな経歴も無駄なく活かせる仕事だと思います。

2. 日本語学校で教える

学校法人瓜生山学園 京都文化日本語学校 専任講師
小西 沙知（こにし さち）



<プロフィール>

大学を卒業し、一般企業にて勤務後、日本語教師養成講座を受講し、日本語教師の道へ。講座終了後、他の日本語学校での非常勤講師を経て、2011年に現在の職場で勤務を開始し、2013年より専任講師として日本語教育に携わってきました。進学、就職、その他様々なニーズを持つ学習者に日本語を教えながら、地域や大学との交流連携活動、夏期集中講座のオリジナル教材開発にも従事してきました。

<メッセージ>

「語学が好き」「教えるのが好き」というところから日本語教師に興味を持ち、この仕事を始めましたが、今思う事は「教える」というのはこの仕事の重要な基盤であると同時に、出発点であるということです。私が現在勤務している学校には、様々な国や地域から様々な経験や知識を持つ留学生が集まってきます。日本語学習を通じて、学生たち一人一人が他の学生や教員、地域の方々等、人々と繋がり、そして「学ぶ」だけでなく日本で自ら「発信する」立場になって活躍しているのを見ると、やりがいを感じますし、こちらが得られるものも非常に大きいです。

3. 就労希望者に教える

一般財団法人 日本国際協力センター（JICE）関西支所
主任日本語講師
三原 加津子（みはら かつこ）



<プロフィール>

大学では全く別の学部を専攻しましたが、日本語講師に興味を持ち、そこから勉強を始めました。日本語学校を数年経験後、JICE の非常勤講師になり、以来 JICA の研修員や留学生、2009 年からは就労を目指す定住外国人、研修生等を対象に日本語を教えています。常に『すぐに使える日本語』を意識しながら、学習者と向き合っています。

<メッセージ>

厚生労働省からの委託事業「外国人就労・定着支援研修」を担当しています。これは、定住外国人を対象とした就労のための日本語研修で、全国17 都道府県、年間約250 コースの規模で開講されています。人手不足産業や成長産業での人材確保、定住外国人の安定雇用促進を目的としており、その内容として、①職場場面のやりとりで必要となる日本語、②職場におけるルールやマナー、③就職活動のノウハウ、④キャリアプランニングなどを取り入れているのが特徴です。主任日本語講師は、現場の日本語講師と連携を取りながらコースをコーディネートするほか、現場の講師として授業に入り、受講者の様子を見ながら教材やコースの改善に取り組んだりもします。現在携わっている就労のための研修や、一日本語講師としてのこれまでの経験などをシェアできたら嬉しいです。どうぞお気軽にいらしてください。

4. 看護・介護職希望者に教える

一般財団法人海外産業人材育成協会関西研修センター
登録日本語講師
矢谷 久美子（やたに くみこ）



<プロフィール>

約 4 年間一般企業に勤めた後、神戸 YWCA 学院日本語教師養成学科で 1 年学び日本語教師の道へ。はじめは日本語学校に通う留学生や宣教師、ビジネスマン向けの研修をしていたが、2000 年より AOTS 関西研修センターで技術研修生への指導を開始。その職場で専門教材の開発を担当したことがきっかけで、介護の日本語に関わることに。現在は、EPA（経済連携協定）で来日したインドネシア人介護福祉士候補者の就労前研修、就労後の国家試験対策のクラスを担当している。常に年長者を敬い、明るく優しい心根を持つ若い候補者と日本語に向き合う日々を過ごしている。

<メッセージ>

日本語教師は、ただ語学を教えるというだけではなく、学習者のお国のことや、自国のことを改めて勉強することができるとても面白い職業だと思います。今後増えるであろう、外国人労働者の日本語指導は緊急の課題です。お互いの文化を知り合って、新しい価値観を持つすてきな介護人材を一緒に育てませんか。教えることは学ぶこと、これから日本語教師を目指す方はもちろん、現職の先生方も専門日本語の指導をきっかけにスキルアップをし、日本語教師の専門性を高めていきましょう！

5. 難民に教える

公益財団法人アジア福祉教育財団
難民事業本部関西支部 日本語教育相談員
中野 美紀（なかの みき）



<プロフィール>

大学卒業後、タイのアユタヤ教育大学で1年、ブラパー大学で日本語科立ち上げ時期の3年間日本語科講師として勤務する。帰国後は、一般企業で勤務しつつ、日本語学校で中上級クラスを担当。その後、青年海外協力隊の日本語教師として、中国内モンゴル自治区の農村地域にある高等学校で日本語を教える。2005年から現職。

<メッセージ>

「難民に教えるってどういうこと?」、「日本に難民はいるの?」と思われた方もいらっしゃるかもしれませんがね。実は日本にはインドシナ難民、条約難民、第三国定住難民の3つのカテゴリーに属する難民の方々がいます。難民向け定住支援プログラムにおける日本語学習の様子、日本に住む難民の方々への日本語学習支援を中心にお伝えしたいと思います。

6. 技能実習生に教える

タイグエン医薬大学（元 HaiPhong 株式会社日本語センター）
教務主任
藤原 麻佐代（ふじわら まさよ）



<プロフィール>

大阪市立総合生涯学習センターの職員として「外国にルーツを持つ子どもの日本語教室」立ち上げの助成事業を担当し、「外国にルーツを持つ子どもの日本語教育」にたずさわりたいとの思いから大学院で日本語教育を学ぶ。

大阪府立高校で非常勤講師として外国にルーツを持つ子どもの日本語教育を担当。地域日本語教室において「外国にルーツを持つ子ども」に関わる。

技能実習生を受け入れている企業から日本語教育を依頼され、技能実習生の日本語教育に興味を持ち、日本の技能実習生受け入れ組合で日本語研修を担当。

JFL 環境の中での日本語教育にたずさわりたいと思い、2015年からベトナムハノイにおいて、留学生送り出し機関、技能実習生送り出し機関で日本語教師として働いた。現在は、ハノイの北にあるタイグエン医薬大学日本語センターで教務主任として働いている。

2013年 やさしい日本語で外国人とコミュニケーションするために「日本語でつたえるコツ」
{外国人保護者と子育て支援に関わる人とのより良いコミュニケーションのために} 作成。

発行：(社福)大阪ボランティア協会

<http://www.osakavol.org/08/multicultural/guidebook.html>

<メッセージ>

「人とのつながり」の大切さ、日本語の持つすばらしさ・難しさを実感し、JFL環境の中でいろいろな事へチャレンジしている日々です。ベトナムにおける留学生、技能実習生送り出し機関の現状、日本語教育についてお話ししたいと思います。

7. 障害のある人に教える

学校法人江副学園新宿日本語学校 校長
江副 隆秀（えぞえ たかひで）



<プロフィール>

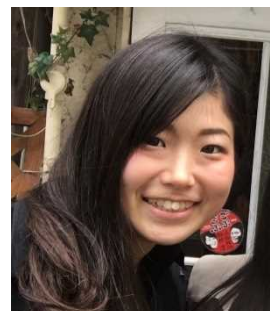
1951年にカトリック系宣教師を対象に日本語教育を開始した両親と1975年に新宿日本語学校を設立し、現在に至っています。その間、株式会社や個人立各種学校の設立を経て、学校法人の日本語学校の設立をいたしました。1975年には日本語教授法などの指導書もなく、一般成人を対象とした教授法を自分で開発せざるを得ない状況で、現在の多くの教授法とは異なる文法観で独自の教授法を編み出さざるを得ませんでした。ただ、その教授法が若手のブラジル日系人に受け、1983年から毎年1ヶ月、国際協力事業団を通して汎米日本語教師合同研修に呼ばれるようになり、1990年12月から1993年3月まで、日本語指導教師として国際協力事業団からサンパウロに派遣されました。そこで、児童対象の可視化した日本語文法教材を作り、帰国後、これを修正したものを発表したところ、TOSS（Teacher's Organization of Skill Sharing〔教育技術法則化運動〕）の向山代表の目に止まり、従来の文法と考え方が違うので、「江副文法」と名付けられました。全国のTOSSの会員が所属する小中学校で実験が行われたり、参加していた特別支援関係の教員から「ろう者の国語教育に使える」と指摘されたりして、現在は全国各地のろう学校などで指導を行なっています。8月には久留米聾学校や佐賀聾学校で研修を行ったところです。

<メッセージ>

現在指摘されている「科学文法」と「学習と教育の文法」（大津由紀雄 2012）という分類から見ると、後者のタイプに当たります。是非、障害がある人でも学習できる日本語文法の教授法にご興味を持っていただきたいと思います。

8. 高等学校で教える

大阪府立布施北高等学校 教諭
甲田 菜津美（こうだ なつみ）



<プロフィール>

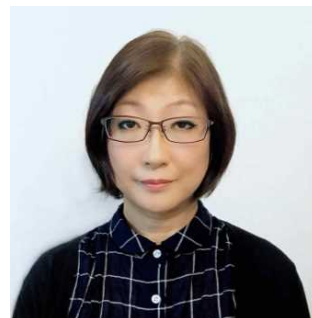
日本語教師を目指して大学進学。ミャンマーでの日本語学校講師、インドネシアジャカルタの私立大学日本語専門講師、北方領土国後島の日本語講師派遣を経て、大学院にて年少者日本語教育を研究。地域の外国にルーツを持つ子どもたちの教室支援にも携わる。現在は大阪府立高等学校の国語教諭として、国語を教えながら外国にルーツのある生徒に日本語を教える。学校教育だけでなく、地域のボランティア教室での日本語教育にも携わり続けている。

<メッセージ>

高校教師としてはまだ新人ですが、子どもたちのため、ひいては日本の将来のために日夜奮闘中です。学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを支えていくことは、日本と世界の架け橋となる人材育成に欠かせない要素だと考えています。年々増加する外国にルーツを持つ子どもたちが最大限の力を発揮できるためのお手伝いをするためには、学習活動だけでなく、学校外での活動や日々の生活の支援も必要です。子どもたちのために何ができるか一緒に考えていきましょう！

9. 中学校で教える

堺市立三原台中学校 日本語教室
指導教諭
浦 久仁子（うら くにこ）



<プロフィール>

大阪教育大学美術科卒業後、中学校美術科教諭として堺市立中学校に勤務。1990年度より、中国残留邦人関係の生徒が在籍する中学校の日本語教室担当として、日本語や各教科の指導を行う。昨年度より、校区の小学校も兼務し、小学生にも指導を行っている。28年前、初めて日本語が話せない生徒に出逢い、YMCA日本語教師養成講座を受講、日本語教育能力検定に合格。現在は、特別支援教育士（S.E.N.S）の勉強中。堺市優秀教員、文部科学大臣優秀教職員の表彰を受ける。

<メッセージ>

学校現場には、来日直後の子どもから、日本生まれで日本語は話せるが、学習に躓きがある子どもまで、ニーズの異なる多様な子どもたちが学んでいます。一人ひとりに寄り添い、一緒に進路を考える中で、対象の子どもたちには学習や友人関係に引き合わせ、保護者には協力をお願いし、周りの子どもや保護者・地域への啓発を広め、学校では言葉の力が弱い子どもに対する教職員の共通理解や授業改善の研修を企画するなど、担当教員の仕事は少なくはありません。しかし、砂に水がしみ込んでいくように日本語を覚え、世界を広げていく子どもたちの様子を実感できることは、教師冥利に尽きるといっても過言ではありません。そんな子どもたちや学校教育の現場の様子、日本語教育関係者の活躍の場について、お伝えしたいと思います。

10. 夜間中学で教える

元 東大阪市立布施中学校夜間学級教員
黒川 優子（くろかわ ゆうこ）



<プロフィール>

東大阪市立の中学校で、「国語」や障がい生徒支援担当として29年勤務。その間、「東大阪市在日外国人教育研究協議会」の事務局などで外国をルーツとする児童生徒に対する教育にも携わる。2009年度から2016年度まで東大阪市立の夜間中学で勤務。中国やペルー・ブラジル・ベトナム・タイなどからの生徒に対して、さまざまな教科の指導を通じて日本語学習を支援。退職後の現在は、ボランティアとして日本語教室で支援している。

<メッセージ>

現在、外国からの児童生徒が増え続けており、学校教育における日本語教育の役割は大変大きなものになっています。とりわけ「夜間中学」は、学齢期を超えた外国人に対する教育機関としても大きく期待され、「各都道府県に少なくとも1校は設置」という方向性が政府から出されています。

十分な基礎教育を受けられていない人を対象とする「夜間中学」では、留学生などへの日本語指導とは異なった面があり、難しさもあります。しかし、豊富な経験を持つ学習者に教えられることも多く、大変豊かな時間を過ごすことができます。ぜひ、多くの方に「夜間中学」に興味を持ち、携わっていただきたいと思います。

11. 出版社で生かす

株式会社凡人社 編集部 編集長
渡辺 唯広（わたなべ ただひろ）



<プロフィール>

大学を卒業後、ホテル勤務のかたわら民間の日本語教師養成コースを修了。日本語教師になるため就職活動をするも、面接官から「声がちいさい」「人間的な魅力が足りない」などとさんざんなことを言われ断念。その後、たまたま新聞で求人広告を見かけた日本語教育の専門書店・出版社である凡人社に入社。日本語教育の教材・教師用参考書の営業職を経て編集の仕事に携わる。

<メッセージ>

編集者として教材・書籍のニーズやアイデアを実際のカタチにするプロセスは、ときに地味で鬱々とし、ときに刺激的だったり感動的で、ものづくりならではのおもしろさにあふれています。

専門書店・出版社の仕事は、間接的にはありますが、広く業界を見渡し、多くの学習者・日本語教育者の方々のお手伝いができる仕事です。また、本やコンテンツを媒介に人と人をつなぐ仕事でもあるように思います。日本語教育の出版社の仕事を紹介し、日本語教育への関わり方の一つをみなさんと考えてみたいと思います。